

12.1.8 人と自然との触れ合いの活動の場

1. 主要な人と自然との触れ合いの活動の場

(1) 調査結果の概要

① 人と自然との触れ合いの活動の場の状況

a. 文献その他の資料調査

人と自然との触れ合いの活動の場の状況は、「第3章 3.1.6 景観及び人と自然との触れ合いの活動の場の状況 2. 人と自然との触れ合いの活動の場の状況」のとおりである。

② 主要な人と自然との触れ合いの活動の場の分布、利用の状況及び利用環境の状況

a. 文献その他の資料調査

(a) 調査地域

工事関係車両の主要な走行ルートの周囲の地域とした。

(b) 調査方法

抽出した主要な人と自然との触れ合いの活動の場について、当該情報の整理及び解析を行った。なお、聞き取りにより文献その他の資料調査を補足した。

(c) 調査結果

主要な人と自然との触れ合いの活動の場の状況は、表 12.1.8-1 のとおりである。

b. 現地調査

(a) 調査地域

工事関係車両の主要な走行ルートの周囲の地域とした。

(b) 調査地点

「a. 文献その他の資料調査」の調査結果を踏まえ、図 12.1.8-1 に示す 5 地点（薬菜山、ジャパンエコトラック 薬菜山登山ルート、ジャパンエコトラック やくらい周遊ルート、ジャパンエコトラック シートゥーサミット宮城加美町ルート、ジャパンエコトラック やくらい MTB ルート）とした。

(c) 調査期間

令和 4 年 10 月 10 日～12 日に実施した。また、景観の現地調査時等にも随時状況を確認した。

(d) 調査方法

抽出した主要な人と自然との触れ合いの活動の場について、現地踏査を行い、利用状況や利用環境の状況、アクセス状況を把握した。

(e) 調査結果

主要な人と自然との触れ合いの活動の場の状況は、表 12.1.8-1 及び表 12.1.8-2 のとおりである。

なお、「薬菜山」と「ジャパンエコトラック 薬菜山登山ルート」については併せて表 12.1.8-1 に、「ジャパンエコトラック」のうち「やくらい周遊ルート」、「シートゥーサミット宮城加美町ルート」、「やくらい MTB ルート」については併せて表 12.1.8-2 に記載した。

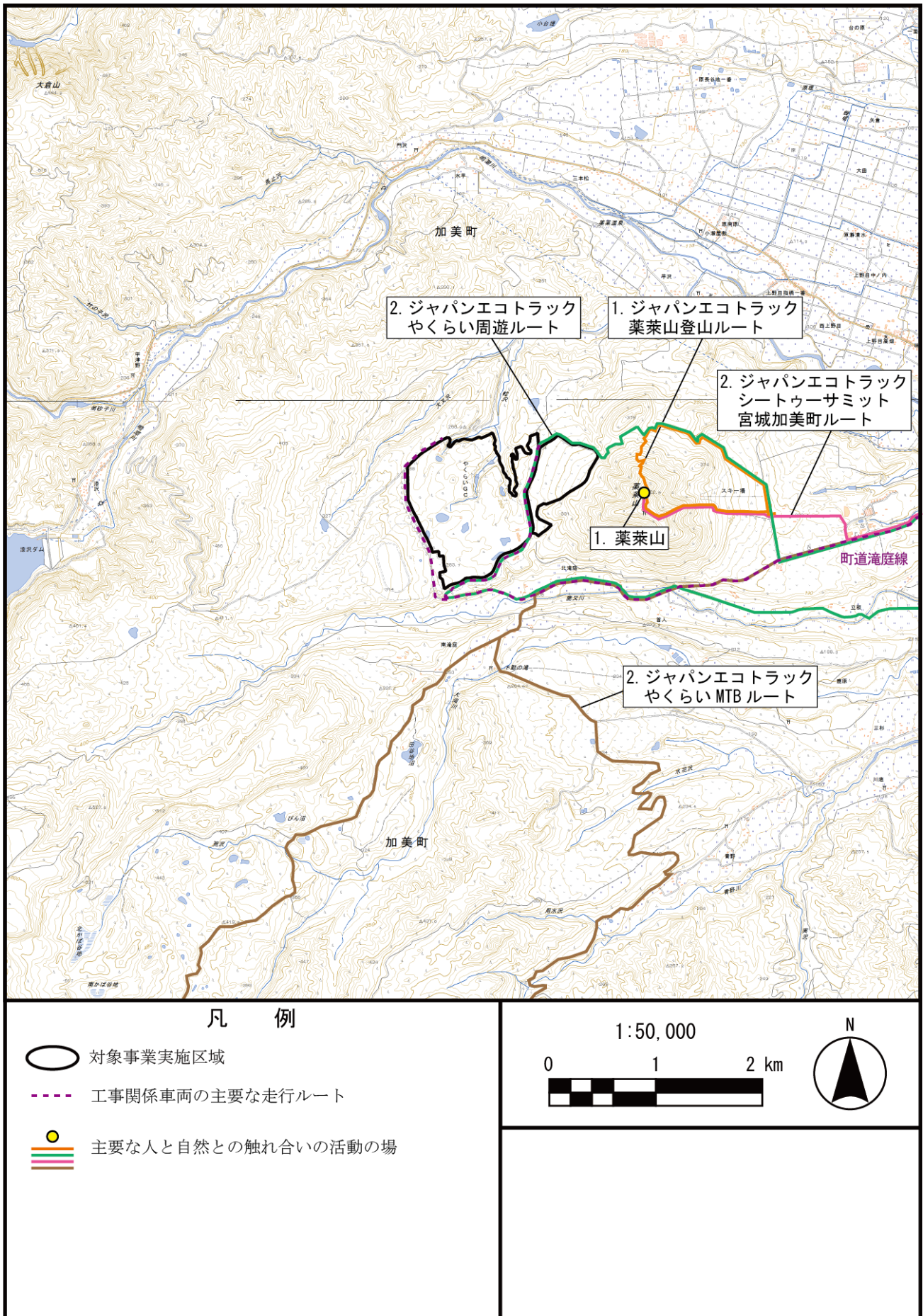


図 12. 1. 8-1 主要な人と自然との触れ合いの活動の場の位置

表 12.1.8-1(1) 主要な人と自然との触れ合いの活動の場の状況

1	調査項目		調査結果
葉菜山・ジャパンエコトラック 葉菜山登山ルート	地点位置及びアクセスルート		<ul style="list-style-type: none"> 対象事業実施区域の東側、山頂まで約 0.6km、最も近接する地点で約 0.4km の離隔に位置している。 工事関係車両の主要な走行ルートとして利用予定の町道源城滝庭線から脇道を入ったところに位置している。
	利用環境の状況	文献その他の資料調査結果	<ul style="list-style-type: none"> 「葉菜山」は加美町のほぼ中央にそびえ、その山容の美しさから別名「加美富士」とも呼ばれている山である。登山口には駐車場とトイレが整備されており、山頂からは東側の古川平野を広く視認することができる。 「葉菜山」の登山道は山頂まで約 1.5km、徒歩約 40 分で楽しむことができ、「ジャパンエコトラック」の「葉菜山登山ルート」に該当する。 「葉菜山」の東側には「やくらいリゾート」が整備されており、葉菜山東斜面には「やくらいファミリースキー場」が、登山口から通りを挟んだ向かい側には「やくらいガーデン」が位置している。「やくらいガーデン」の駐車場は約 800 台収容可能である。
		現地調査結果	<ul style="list-style-type: none"> 「葉菜山」の登山口は 2 か所あり、東側の登山口は幅員 9m 程の広い道路に接し、大きな鳥居と 4 台程駐車可能なスペース、仮設トイレが整備されていた (①)。東側の登山道の大半は丸太階段が設置され、丸太階段は 700 段にも及ぶが、整備・管理されて登りやすい状況であった (②～⑥)。 北側の登山口は林道沿いに位置しており、道標と保安林案内板が設置されていたものの、駐車可能なスペースは確認できなかった (⑫)。北側の登山道は急坂であったが、東側同様、整備・管理されている様子が窺えた (⑩・⑪)。 登山道はいずれも樹林内で視界は開けておらず、対象事業実施区域方向も遮られている状況であった。 山頂には、山頂ポスト、小広場、祠、望遠鏡、風景案内板があり、東側の古川平野方向は開けていたが、西側は樹林で遮られ、対象事業実施区域は視認できない状況であった (⑦～⑨)。 東側の登山口の対面に位置する「やくらいガーデン」は、広大な敷地にお花畑が広がる観光地で、見所である「ふるの丘」の展望テラスからは花畑と「葉菜山」を一望することができる。「ふるの丘」を含め、ガーデン内から対象事業実施区域は視認されない状況であった (⑬)。
	利用の状況	利用者特性 利用者数等	<ul style="list-style-type: none"> 関係機関への聞き取りによると、令和 3 年の「葉菜山」及び「やくらいガーデン」を含む「やくらいリゾート」エリアの利用者数は計 1,058,566 人で、その内訳は、町内からの来訪が約 4 割、町外からは約 4 割、県外からは約 2 割、平日の来訪が約 2 割、休日が約 8 割、通年利用可能だが春と秋の利用が多く、多い日は 1 日あたり約 1,300 人の来訪が見られ、5 月のゴールデンウィーク、9 月のシルバーウィークには周辺道路で混雑が見られるとのことであった。なお、そのうち令和 3 年の「葉菜山」の年間登山者数は 261,413 人、「やくらいファミリースキー場」の利用者数は 3,427 人とのことであった。
		催事状況	<ul style="list-style-type: none"> やくらい元旦登山：東側が開けた葉菜山の山頂からは、天候に恵まれれば広大な大崎耕土照らす御来光を迎える事ができる。 やくらいふれあいカーニバル：「やくらいファミリースキー場」や「やくらい葉師の湯」を中心に開催される冬のイベントで、ウィンタースポーツ体験やアウトドア PR コーナー、飲食・物販コーナーを楽しむことができ、夜には花火の打ち上げも行われる。令和 5 年は 2 月 4 日 (土) に開催された。 やくらいガーデンイベント：隣接する「やくらいガーデン」では、春はローズフェア、夏はアンブレラスカイ、秋はオータムフラワーフェア等、季節ごとに各種イベントが開催されている。
		現地調査結果	<ul style="list-style-type: none"> 現地調査時、東側の登山口駐車場に車はなく、確認できた「葉菜山」の利用者は 3 人であった。いずれも山に慣れた様子で、うち 1 人は、登山口と山頂を複数回往復している様子であった。 「やくらいガーデン」では 200 人程の利用者が散策、自然観賞、撮影等を楽しんでいる様子を確認した。

※表内の番号は、表 12.1.8-1(2)～(3)に対応している。

表 12.1.8-1(2) 主要な人と自然との触れ合いの活動の場の状況

1	調査項目	調査結果
葉菜山・ジャパネコトラック 葉菜山登山ルート	現地の状況	
		<p>① 東側の登山口 ※鳥居、駐車可能スペースあり</p>
		<p>① 鳥居をくぐった地点 ※右：やくらいファミリースキー場</p> <p>② 東側の登山道（スキー場横） ※アスファルト舗装</p>
		<p>③ 東側の登山道 ※706 段の丸太階段が始まる地点</p> <p>④ 東側の登山道 ※丸太階段が続く状況</p> <p>⑤ 東側の登山道 ※丸太階段の終点</p>
	<p>⑥ 東側の登山道（尾根道区間） ※山頂まで平坦な道が続く状況</p> <p>⑦ 山頂南側の祠 ※山頂まで約 170m の地点</p> <p>⑧ 視界が開けている地点 ※望遠鏡、風景案内板の設置あり</p>	

※表内の番号は表 12.1.8-1(1) に対応している。

※車道区間については表 12.1.8-2 参照。

表 12.1.8-1(3) 主要な人と自然との触れ合いの活動の場の状況

1	調査項目	調査結果	
葉菜山・ジャパネコトラック 葉菜山登山ルート	現地の状況		
	⑧望遠鏡・風景案内板の位置 ※東側が開けている状況	⑨山頂 ※山頂ポスト、小広場あり	⑨山頂からの眺望 ※東側が開けている状況
	⑩北側の登山道 ※急坂が続く状況	⑪北側の登山道 ※急坂が続く状況	⑫北側の登山口 ※右：対象事業実施区域への林道
	⑬やくらいガーデン 駐車場	⑬やくらいガーデン イベント広場	⑬やくらいガーデン ふるりの丘からの眺望

※表内の番号は表 12.1.8-1(1)に対応している。
 ※車道区間については表 12.1.8-2 参照。

表 12.1.8-2(1) 主要な人と自然との触れ合いの活動の場の状況

2	調査項目		調査結果
ジャパンエコトラック やくらい周遊ルート・シートゥーサミット宮城加美町ルート・やくらいMTBルート	地点位置及びアクセスルート	<ul style="list-style-type: none"> 対象事業実施区域の周囲に位置しており、一部区間は対象事業実施区域の間に位置している。 一部区間が工事関係車両の主要な走行ルートとして利用予定の一般国道 347 号及び町道源城滝庭線に重複している。 	
	利用環境の状況	文献その他の資料調査結果	<ul style="list-style-type: none"> 「ジャパンエコトラック」は、トレッキング・カヤック・自転車といった人力による移動手段で、日本各地の多様な自然を体感し、地域の歴史や文化、人々との交流を楽しみながら旅をするスタイルを提案しており、各地のルート上では、トイレ・給水の対応や空気入れ・工具の貸し出し等を行う協力店、駅・空港・道の駅など交通の要衝となる“ステーション”がある。 本事業の対象事業実施区域の周囲には「葉菜山登山ルート」、「やくらい周遊ルート」、「シートゥーサミット宮城加美町ルート」、「やくらい MTB ルート」の一部が位置しており、主な見所地点は次のとおりである。 ○葉菜山登山ルート：表 12.1.8-1 参照 ○やくらい周遊ルート：やくらい薬師の湯、やくらいガーデン等 ○シートゥーサミット宮城加美町ルート：葉菜山等 ○やくらい MTB ルート：やくらい薬師の湯、荒沢自然館、大滝農村公園等
	現地調査結果	<ul style="list-style-type: none"> 現地調査は、町道源城滝庭線をはじめとする対象事業実施区域周辺の区間において実施した（表 12.1.8-2(2)～(7)の図参照）。 調査区間はいずれも舗装された車道を走る状況で、ジャパンエコトラックの案内や道標はなく、サイクリング利用者用の施設や設備も特段確認できなかった。 「やくらい周遊ルート」のうち、対象事業実施区域の間に位置する区間及び隣接している区間（⑰～⑳）については、北端（⑰）から「やくらいサイズゴルフクラブ」のクラブハウス付近（㉓）までは、大半の区間が高い藪や雑草が道の両側を覆っている状況で、見通しの良い地点も確認できなかった。クラブハウス付近（㉓）から南端（㉑）までの区間は、除草や植栽及び路面の整備等によって人工的ではあるが沿道風景がつくられており、道の正面に葉菜山を視認できる地点（㉒）も確認した。 その他の区間やルートからは、「葉菜山」を望める地点は多かったものの、対象事業実施区域は視認されない状況であった。また、各ルートの見所地点からも対象事業実施区域は視認されない状況であった。 	
	利用の状況	利用者特性 利用者数等	<ul style="list-style-type: none"> 関係機関への聞き取りによると、ジャパンエコトラックのルートごとの利用者数は把握していないが、「シートゥーサミット宮城加美町ルート」では例年 10 月に「加美町 SEA TO SUMMIT」が、対象事業実施区域北側の一般国道 347 号に該当する「347「きずな」ルート（表 3.1-41 及び図 3.1-31 参照）」では例年 9 月に「ツール・ド・347」が開催されており、イベント開催時の利用者数が利用の多い日と考えられるとのことであった。
	催事状況	<ul style="list-style-type: none"> 加美町 SEA TO SUMMIT:「シートゥーサミット宮城加美町ルート」で開催される。人力のみで海から里、そして山頂へと進む中で、自然の循環に思いを巡らせ、かけがえのない自然について考えようという環境スポーツイベントで、令和 4 年は 10 月 8 日（土）、9 日（日）に加美町第 3 回大会が開かれ、計 154 人の参加があった。令和 5 年は 10 月 7 日（土）、8 日（日）に開催された。 ツール・ド・347: 対象事業実施区域の北側に位置する「347「きずな」ルート（一般国道 347 号）」で開催される。宮城・山形を結ぶ国道 347 号線の自然を体感できるサイクリングイベントで、宮城県加美町、山形県尾花沢市、山形県大石町との「絆」交流事業の一つである。令和 4 年は 9 月 25 日（日）に開催され、ロングコース（約 120km）、ショートコース（約 47km）、パラチャレンジの部（約 25km）があり、計 125 人の参加があった。令和 5 年は 6 月 24 日（土）に開催された。 	
	現地調査結果	<ul style="list-style-type: none"> 現地調査期間中、いずれのルートでもサイクリング利用は確認できなかった。また、対象事業実施区域の間に位置する「やくらい周遊ルート」については景観の現地調査時等にも随時状況を確認したが、対象事業実施区域の間を通過するサイクリング利用は確認できなかった。 	

※表内の番号は、表 12.1.8-2(2)～(7)に対応している。

表 12.1.8-2(2) 主要な人と自然との触れ合いの活動の場の状況

2	調査項目	調査結果
ジャパンエコトラック やくらい周遊ルート・シートゥーサミット宮城加美町ルート・やくらいMTBルート	現地の状況	
		<p>① ジャパンエコトラック</p>
		<p>② やくらい薬師の湯</p> <p>③ たびの邸宅やくらいコテージ</p>
		<p>④ やくらいパークゴルフ場 ※利用者あり</p> <p>⑤ ジャパンエコトラック ※右折：やくらいパークゴルフ場</p> <p>⑥ ジャパンエコトラック ※正面奥：薬菜山</p>
	<p>⑦ ジャパンエコトラック ※調査員の車を停車中</p> <p>⑧ やくらい高原原放牧場 ※左：調査員の車を停車中</p> <p>⑨ ジャパンエコトラック ※奥：やくらいガーデン方向</p>	

※表内の番号は表 12.1.8-2(1)に対応している。
 ※図内の矢印は撮影方向を示している。

表 12.1.8-2(3) 主要な人と自然との触れ合いの活動の場の状況

2	調査項目	調査結果
ジャパンエコトラック やくらい周遊ルート・シートゥーサミット宮城加美町ルート・やくらいMTBルート	現地の状況	
		<p>⑩ ジャパンエコトラック</p>
		<p>⑬ ジャパンエコトラック ※奥：対象事業実施区域方向</p>
		<p>⑯ ジャパンエコトラック ※奥：対象事業実施区域方向</p>

※表内の番号は表 12.1.8-2(1)に対応している。
 ※図内の矢印は撮影方向を示している。

表 12.1.8-2(4) 主要な人と自然との触れ合いの活動の場の状況

2	調査項目	調査結果		
ジャパンエコトラック やくらい周遊ルート・シートゥーサミット宮城加美町ルート・やくらいMTBルート	現地の状況			
		<p>⑱ ジャパンエコトラック ※左：対象事業実施区域</p>	<p>⑳ ジャパンエコトラック ※対象事業実施区域の間の区間</p>	<p>㉑ ジャパンエコトラック ※対象事業実施区域の間の区間</p>
		<p>㉒ ジャパンエコトラック ※対象事業実施区域の間の区間 奥：南方向</p>	<p>㉒ ジャパンエコトラック ※対象事業実施区域の間の区間 奥：北方向</p>	<p>㉓ ジャパンエコトラック ※対象事業実施区域の間の区間 奥：南方向</p>
		<p>㉓ ジャパンエコトラック ※対象事業実施区域の間の区間 奥：北方向</p>	<p>㉔ ジャパンエコトラック ※対象事業実施区域の間の区間 奥：南方向</p>	<p>㉔ ジャパンエコトラック ※対象事業実施区域の間の区間 奥：北方向</p>

※表内の番号は表 12.1.8-2(1)に対応している。
 ※図内の矢印は撮影方向を示している。

表 12.1.8-2(5) 主要な人と自然との触れ合いの活動の場の状況

2	調査項目	調査結果		
ジャパンエコトラック やくらい周遊ルート・シートゥーサミット宮城加美町ルート・やくらいMTBルート	現地の状況			
		<p>②⑤ ジャパンエコトラック ※左～正面：対象事業実施区域</p>		<p>②⑦ ジャパンエコトラック ※左：対象事業実施区域</p>
		<p>②⑧ ジャパンエコトラック ※左：対象事業実施区域</p>		<p>③⑩ ジャパンエコトラック ※奥：対象事業実施区域</p>
		<p>③① ジャパンエコトラック ※奥：対象事業実施区域方向</p>		<p>③② ジャパンエコトラック ※奥：不動の滝・荒沢自然館方向</p>

※表内の番号は表 12.1.8-2(1)に対応している。
 ※図内の矢印は撮影方向を示している。

表 12.1.8-2(6) 主要な人と自然との触れ合いの活動の場の状況

2	調査項目	調査結果	
ジャパンエコトラック やくらい周遊ルート・シートゥーサミット宮城加美町ルート・やくらいMTBルート	現地の状況		
	<p>③③ ジャパンエコトラック ※奥：不動の滝方向</p>	<p>③③ ジャパンエコトラック ※奥：荒沢自然館方向</p>	<p>③④ ジャパンエコトラック ・※奥：不動の滝方向</p>
	<p>③⑤ 不動の滝 大滝神社</p>	<p>③⑤ 不動の滝 遊歩道 (階段)</p>	<p>③⑤ 不動の滝</p>
	<p>③⑥ 大滝農村公園 駐車場</p>	<p>③⑥ 大滝農村公園</p>	<p>③⑦ ジャパンエコトラック</p>

※表内の番号は表 12.1.8-2(1)に対応している。
 ※図内の矢印は撮影方向を示している。

表 12.1.8-2(7) 主要な人と自然との触れ合いの活動の場の状況

2	調査項目	調査結果	
ジャパンエコトラック やくらい周遊ルート・シートゥーサミット宮城加美町ルート・やくらいMTBルート	現地の状況		
	<p>③⑧ ジャパンエコトラック</p>	<p>③⑨ ワラビもぎとり園 入口</p>	<p>④⑩ ジャパンエコトラック</p>
	<p>④① 荒沢自然館 駐車場</p>	<p>④② 荒沢湿原</p>	<p>④③ ジャパンエコトラック</p>
	<p>④④ ジャパンエコトラック</p>	<p>④⑤ ジャパンエコトラック</p>	<p>④⑥ ジャパンエコトラック</p>

※表内の番号は表 12.1.8-2(1)に対応している。
 ※図内の矢印は撮影方向を示している。

(2) 予測及び評価の結果

① 工事の実施

a. 工事用資材等の搬出入

(a) 環境保全措置

工事用資材等の搬出入に伴う主要な人と自然との触れ合いの活動の場への影響を低減するため、以下の環境保全措置を講じる。

- ・ 工事関係者の通勤においては、乗り合いの促進に努めることにより、工事関係車両台数の低減を図る。
- ・ 工事工程の調整等により工事関係車両台数を平準化し、建設工事のピーク時の台数低減を図る。
- ・ 現地看板による工事周知とともに、工事関係車両の適正走行、歩行者やサイクリストがいる場所は細心の注意を払って走行することを徹底する。また、エコドライブを徹底し、道路交通騒音の低減に努める。
- ・ 関係機関等に随時確認し、工事関係車両の主要な走行ルートにアクセスが集中する可能性のあるイベントが開催される場合や、混雑する可能性のある5月のゴールデンウィーク及び9月のシルバーウィークには、該当日の該当区間の工事関係車両の走行をできる限り控える等、配慮する。また、「ジャパンエコトラック」のうち対象事業実施区域の間に位置する「やくらい周遊ルート」を利用するイベントが開催される場合には、該当日は休工とし、当該ルートの利用を妨げないよう配慮する。
- ・ 定期的に会議等を行い、工事関係者に環境保全措置の内容について、周知徹底する。

(b) 予測

7. 予測地域

調査地域と同様、工事関係車両の主要な走行ルートの周囲の地域とした。

4. 予測地点

現地調査を実施した5地点（薬菜山、ジャパンエコトラック 薬菜山登山ルート、ジャパンエコトラック やくらい周遊ルート、ジャパンエコトラック シートゥーサミット宮城加美町ルート、ジャパンエコトラック やくらいMTBルート）とした。

ウ. 予測対象時期

工事関係車両の交通量が最大となる時期とした。

エ. 予測手法

環境保全のために講じようとする措置を踏まえ、工事用資材等の搬出入に伴う主要な人と自然との触れ合いの活動の場へのアクセスルートにおける交通量の変化を予測し、利用特性への影響を予測した。

オ. 予測結果

予測結果は表 12.1.8-3 のとおりである。

なお、「薬菜山」と「ジャパンエコトラック 薬菜山登山ルート」については併せて「1」、「ジャパンエコトラック」のうち「やくらい周遊ルート」、「シートゥーサミット宮城加美町ルート」、「やくらいMTBルート」については併せて「2」として記載した。

表 12.1.8-3 主要な人と自然との触れ合いの活動の場への影響の予測結果
(工事中資材等の搬出入)

番号	予測地点	予測結果
1	薬菜山・ ジャパンエコトラック 薬菜山登山ルート	<p>薬菜山並びにジャパンエコトラック 薬菜山登山ルートは、工事関係車両の主要な走行ルートとして利用予定の町道源城滝庭線から脇道を入ったところに位置しており、本地点へのアクセスルートが工事関係車両の主要な走行ルートと重複する可能性は高い。</p> <p>しかし、工事関係車両の台数低減を図る環境保全措置を講じることにより、本事業による工事関係車両の交通量は最大となる時期の最大となる台数でも 140 台/11 時間であること、混雑する時期はあるものの「工事関係車両の主要な走行ルートにアクセスが集中する可能性のあるイベントが開催される場合や、混雑する可能性のある 5 月のゴールデンウィーク及び 9 月のシルバーウィークには、該当日の該当区間の工事関係車両の走行をできる限り控える等、配慮する」等の環境保全措置も講じることから、工事中資材等の搬出入により本地点の利用及びアクセスは阻害されないと予測する。</p>
2	ジャパンエコトラック やくらい周遊ルート・シ ートウーサミット宮城加 美町ルート・やくらいM T Bルート	<p>ジャパンエコトラックの 3 ルートのうち、一部区間が工事関係車両の主要な走行ルートとして利用予定の一般国道 347 号及び町道源城滝庭線と重複している。</p> <p>しかし、一般国道 347 号は 4,735 台/12 時間程の交通量がある一方、工事関係車両の台数低減を図る環境保全措置を講じることにより、本事業による工事関係車両の交通量は最大となる時期の最大となる台数でも 140 台/11 時間で、交通の増加量は最大で現況の約 1.03 倍である。町道源城滝庭線については薬菜山の東側（やくらいリゾート）周辺の区間は混雑する時期があるものの、薬菜山の南側～西側の区間は現況の交通量は少ないと推測することから相応の増加量が見込まれるが、本事業による工事関係車両の交通量は最大となる時期の最大となる台数でも 140 台/11 時間である。</p> <p>また、イベント等に利用されているルートからは隔離を確保していること、対象事業実施区域の周囲に位置する「やくらい周遊ルート」は現況で利用が少なく、「現地看板による工事周知とともに、工事関係車両の適正走行、歩行者やサイクリストがいる場所は細心の注意を払って走行することを徹底する」、「対象事業実施区域の間に位置する「やくらい周遊ルート」を利用するイベントが開催される場合には、該当日は休工とし、当該ルートの利用を妨げないよう配慮する」との環境保全措置も講じていること、「エコドライブを徹底し、道路交通騒音の低減に努める」との環境保全措置も講じ、工事関係車両の主要な走行ルートと重複する区間における騒音レベルの増加量は現状に比べて 1～2 デシベルであることから、工事中資材等の搬出入により本ルートの利用及びアクセスは阻害されないと予測する。</p>

注：1. 表中番号は、図 12.1.8-1 に対応している。

2. 交通量については、「令和 3 年度全国道路・街路交通情勢調査 一般交通量集計表」を参照した。

(c) 評価の結果

7. 環境影響の回避、低減に関する評価

工所用資材等の搬出入に伴う主要な人と自然との触れ合いの活動の場への影響を低減するための環境保全措置は、以下のとおりである。

- 工事関係者の通勤においては、乗り合いの促進に努めることにより、工事関係車両台数の低減を図る。
- 工事工程の調整等により工事関係車両台数を平準化し、建設工事のピーク時の台数低減を図る。
- 現地看板による工事周知とともに、工事関係車両の適正走行、歩行者やサイクリストがいる場所は細心の注意を払って走行することを徹底する。また、エコドライブを徹底し、道路交通騒音の低減に努める。
- 関係機関等に随時確認し、工事関係車両の主要な走行ルートにアクセスが集中する可能性のあるイベントが開催される場合や、混雑する可能性のある5月のゴールデンウィーク及び9月のシルバーウィークには、該当日の該当区間の工事関係車両の走行をできる限り控える等、配慮する。また、「ジャパンエコトラック」のうち対象事業実施区域の間に位置する「やくらい周遊ルート」を利用するイベントが開催される場合には、該当日は休工とし、当該ルートの利用を妨げないよう配慮する。
- 定期的に会議等を行い、工事関係者に環境保全措置の内容について、周知徹底する。

上記の環境保全措置を講じることにより、各地点の利用は阻害されないことから、工所用資材等の搬出入に伴う主要な人と自然との触れ合いの活動の場への影響は、実行可能な範囲内で低減が図られているものと評価する。

② 土地又は工作物の存在及び供用

a. 地形改変及び施設の存在

(a) 環境保全措置

地形改変及び施設の存在に伴う主要な人と自然との触れ合いの活動の場への影響を低減するため、以下の環境保全措置を講じる。

- ・周辺の地形を利用しながら可能な限り造成面積、伐採面積を小さくするとともに、主要な人と自然との触れ合いの活動の場として機能している範囲には極力改変が及ばない計画とする。
- ・造成により生じた切盛法面等は可能な限り緑化に努め、修景を図る。
- ・残置森林等を確保することにより周辺からの景観に配慮するとともに、隣接町道（町道薬菜線）沿いに設置する太陽光パネルの一部を移動させ隣接町道（町道薬菜線）から離隔をとる、隣接町道（町道薬菜線）の両側に管理道路を設置し当該管理道路部分をできるだけ盛土することにより隣接町道（町道薬菜線）からの景観に対しても配慮した計画とする。
- ・発電設備の適切な点検・整備を実施することで性能維持に努め、騒音原因となる異音、異常振動等の発生を抑制する。

(b) 予 測

7. 予測地域

対象事業実施区域及びその周囲とした。

4. 予測地点

現地調査を実施した5地点（薬菜山、ジャパンエコトラック 薬菜山登山ルート、ジャパンエコトラック やくらい周遊ルート、ジャパンエコトラック シートゥーサミット宮城加美町ルート、ジャパンエコトラック やくらいMTB ルート）とした。

ウ. 予測対象時期等

すべての太陽電池発電施設が完成した時期とした。

エ. 予測手法

環境保全のために講じようとする措置を踏まえ、主要な人と自然との触れ合いの活動の場について、分布及び利用環境の改変の程度を把握した上で、利用特性への影響を予測した。

オ. 予測結果

予測結果は、表 12.1.8-4 のとおりである。

なお、「薬菜山」と「ジャパンエコトラック 薬菜山登山ルート」については併せて「1」、「ジャパンエコトラック」のうち「やくらい周遊ルート」、「シートゥーサミット宮城加美町ルート」、「やくらいMTB ルート」については併せて「2」として記載した。

表 12.1.8-4 主要な人と自然との触れ合いの活動の場への影響の予測結果
(地形改変及び施設の存在)

番号	予測地点	予測結果
1	菓菓山・ ジャパンエコトラック 菓菓山登山ルート	菓菓山並びにジャパンエコトラック 菓菓山登山ルートに、本事業の実施による直接改変は生じない。 また、最も近接する地点で約 0.4km、山頂で約 0.6km の離隔を確保しており且つ対象事業実施区域は視認されないこと、「騒音原因となる異音、異常振動等の発生を抑制する」との環境保全措置も講じ騒音にも配慮した計画としていることから、地形改変及び施設の存在により本地点の利用は阻害されないと予測する。
2	ジャパンエコトラック やくらい周遊ルート・シ ートゥーサミット宮城加 美町ルート・やくらいM TBルート	対象事業実施区域の周囲に位置するジャパンエコトラックのうち、「やくらい周遊ルート」の一部区間が対象事業実施区域の間に位置しており、ルート沿いに位置する樹木の伐採等、一部に直接改変が生じるとともに、太陽光パネル等の設置による景観の変化が生じる。 しかし、主要な人と自然との触れ合いの活動の場として機能している範囲には極力改変が及ばない計画とするとの環境保全措置を講じ、イベント等に利用されているルートからは離隔を確保し、かつ変化が生じるのは現況では利用が少ない「やくらい周遊ルート」の一部区間にとどめていること、「可能な限り緑化に努め、修景を図る」、「隣接町道（町道菓菓線）沿いに設置する太陽光パネルの一部を移動させ隣接町道（町道菓菓線）から離隔をとる、隣接町道（町道菓菓線）の両側に管理道路を設置し当該管理道路部分をできるだけ盛土することにより隣接町道（町道菓菓線）からの景観に対しても配慮した計画とする」、「騒音原因となる異音、異常振動等の発生を抑制する」等の環境保全措置も講じ景観や騒音に配慮した計画としていることから、地形改変及び施設の存在により本ルートの利用は阻害されないと予測する。

注：1. 表中番号は、図 12.1.8-1 に対応している。

(c) 評価の結果

7. 環境影響の回避、低減に関する評価

地形改変及び施設の存在に伴う主要な人と自然との触れ合いの活動の場への影響を低減するための環境保全措置は以下のとおりである。

- ・周辺の地形を利用しながら可能な限り造成面積、伐採面積を小さくするとともに、主要な人と自然との触れ合いの活動の場として機能している範囲には極力改変が及ばない計画とする。
- ・造成により生じた切盛法面等は可能な限り緑化に努め、修景を図る。
- ・残置森林等を確保することにより周辺からの景観に配慮するとともに、隣接町道（町道菓菓線）沿いに設置する太陽光パネルの一部を移動させ隣接町道（町道菓菓線）から離隔をとる、隣接町道（町道菓菓線）の両側に管理道路を設置し当該管理道路部分をできるだけ盛土することにより隣接町道（町道菓菓線）からの景観に対しても配慮した計画とする。
- ・発電設備の適切な点検・整備を実施することで性能維持に努め、騒音原因となる異音、異常振動等の発生を抑制する。

上記の環境保全措置を講じることにより、各地点の利用は阻害されないことから、地形改変及び施設の存在に伴う主要な人と自然との触れ合いの活動の場への影響は、実行可能な範囲内で低減が図られているものと評価する。

(空白)